2021

ひょうご さとまちガイドラボ
Sato-Machi Guide Lab

ひょうご関係人口案内所

～さとまちガイドラボ～

里山 ⇄ 街中

週末は「里」の人になってみませんか？

ひょうご関係人口案内所とは?

ひょうご関係人口案内所は、「里山」と「街中」を行き来しながら里山地域に継続的に関わる者※を案内し、「街中」から「里山」へのつながりを築き、新しいヒトの流れを創出することを目的としています。 ※関係人口の定義

基本的な機能

1. 「里山」と「街中」をつなぐ『マッチング』を進めます
2. 里山と街中の共通の「コミュニティ・ミッション(さとまち協定)」を掲げます
3. コーディネーターを派遣後、里山の希望に沿った「外部人材」を追加派遣します

■目指すスキーム

コーディネーターが「里山」と「街中」をつなぐ

"コミュニティ・ミッション" を策定

ナビゲーター・アンバサダー・フォトグラファー・ボランティアを派遣

Field 里山

(小規模集落地域・多自然地域)

- 地域協議会・自治会会長
- 専門官・行政
- 地域再生アドバイザー
- 教育委員会
- 地域団体・企業

里山からの派遣依頼

コーディネーター

人材協力

相談依頼

育成認定 **School**

コーディネーター養成スクール

街中 Cafe

Human 外部人材

- ナビゲーター
- アンバサダー
- フォトグラファー
- ボランティア
- ファン

街中からの人材登録

ひょうご関係人口案内所

さとまちガイドラボ
Sato-Machi Guide Lab
事務局

Guide

事務局サポーター

里山への効果

- ▶農産品の収穫作業、祭りなど担い手不足の解消
- ▶「外部人材」視点による地域PR、SNS発信
- ▶街中の団体等との連携による商品開発

街中への効果

- ▶農や自然とのふれあい、リフレッシュ
- ▶里山体験による学び、新たなビジネスの発芽
- ▶将来的な二地域居住、移住にむけた里山体験

目次

Ⅰ ひょうご関係人口案内所とは …… 2
Ⅱ 里山の先導事例(2年目)～2020年のFs調査※地区 … 3
里山の関係人口活用モデル事業の実施事例 …… 4
コミュニティミッション策定中の里山事例 …… 9
Ⅲ コーディネーターの養成スクール …… 10

※Fs調査
フィジビリティ・スタディ調査。新規事業などのプロジェクトの事業化の可能性を調査すること。

各地区の経過

	【地区名】	【外部人材】
2年目 [2020～]	■佐用町江川地域づくり協議会	アンバサダー
	■朝来市上八代区	ボランティア
1年目 [2021～]	■加西市西在田地区	コーディネーター
	■神河町根宇野地区	ボランティア
	■加東市河高地域づくり委員会	フォトグラファー
	■多可町中区坂本村づくり協議会	ボランティア
	■丹波篠山市川阪自治会	ナビゲーター
	■洲本市竹原町内会	ナビゲーター
	■猪名川町大島小学校区まちづくり協議会	地域で協議中

※事例ページのタイトルは、コミュニティミッションを示す。

はりま里山ホップづくり　Field_001　佐用町江川地域づくり協議会×はりまグリーンラボ

里山

● 事業主体：
江川地域づくり協議会

■集落課題：
「空き家」や「耕作放棄地」等

耕作放棄地対策として、ビールの原料となるホップに着目し、ホップ体験畑での街中人材との交流体験と江川ロゴ入りラベルの製作に取り組む。

街中

● 事業主体：
はりまグリーンラボ（アンバサダー）

■活動の動機

播磨地域でみどりを広げる活動を展開。ホップの収穫量の増大とはりまホッププロジェクトの発展に向けた、里山でのホップファームを求めていた。

「ホップの里・江川」づくりをみんなで楽しみましょう！

担当CD

CDの役割

●江川地域づくり協議会に対して
　オンラインカフェや現地活動のコーディネート
●はりまグリーンラボに対して
　現地活動のサポートとクラウドファンディングの計画

行政の役割

コミュニティミッションの確認、コーディネーターとの連絡調整、情報共有および広報活動、県民局との調整、ふるさと納税返礼品への掲載実現

2021年度の活動内容

①株こしらえ(4/3)

②オンラインカフェ(5/22)

③摘芯等実践活動(6/5)

④収穫の実践活動(7/24,8/22)

⑤ビール完成・披露

昨年度の成果と課題

江川産ホップを 1.5kg 収穫し、ロゴ入りビール 150 本が完成。里山ではホップ栽培のノウハウを、街中では良質なホップを入手できた。

今年度の成果

江川産ホップを 7.65kg 収穫し、ロゴ入りビール 6,000 本が完成。佐用町のふるさと納税の返礼品となり、佐用町の酒屋でも販売されるようになった。

今後の課題

佐用町江川産ホップの品質向上、ロゴ入りビールの販売における「地域経済への寄与」、「地域内での賛同者の拡大」が課題である。

ひょうご安心ブランド 枝豆保全ボランティア　Field_002　朝来市上八代集落×ボランティア

里山

● 事業主体：
上八代区、上八代営農組合

■集落課題：
ひょうご安心ブランドの黒大豆枝豆を維持する人手の確保（人口45人、20世帯）

街中からのボランティアの受入機会を増やし、人手不足を解消する。

街中

● 外部人材：
ボランティア

■活動の動機

里山体験を行いたい街中の人手が一定数存在する。子育てや豊かなライフスタイルを実現するため、ボランティアで農作業を体験し、ひょうご安心ブランドの枝豆保全と広報に努める。

担当CD

山間の集落に集い、語らいながら、楽しんで活動しましょう。

CDの役割

●上八代集落に対して
　オンラインカフェや現地活動のコーディネート
●街中ボランティアに対して
　ボランティアのサポート、現地進行、集落との調整役、クラウドファンディングの計画

行政の役割

コミュニティミッションの確認、県民局との調整、移住施策等の説明

2021年度の活動内容

①事前打合せ(6/15)

②オンラインカフェ(7/3)

③実践活動(7/23,7/30,8/11,10/23,10/30,11/6)：枝豆の収穫・選別・土寄せ・撤去作業

昨年度の成果と課題

25%の作業時間の削減効果（マルチはがし）、50%の作業時間の削減効果(収穫作業)、売上増による経済効果、ボランティアの高い満足度

今年度の成果

今年は冷夏と長雨の影響で、黒大豆枝豆の選別作業がより重要となり、ボランティアの働きを計算しながら、地域の営農作業が進んだ。また、新たに 6 人 2 世帯の移住者の受入を予定している。

今後の課題

「ボランティアの参加意欲の継続」、コーディネーターによる「全体運営バランスの見守り」、持続可能なシステムとなるような「6次産業化への企画実践」

※**Fs調査**：フィジビリティ・スタディ調査。新規事業などのプロジェクトの事業化の可能性を調査すること。

地域内での賛同者の拡大

来年度からは自立自走できます！

場 所 加西市西在田地区ふるさと創造会議　**事業年月日** 2021年6月～2022年3月

担当CD

「虹の郷にしありた」から広がる人の輪と地域の輪

里山

- 事業主体：**西在田地区ふるさと創造会議・ハーブ部会**
- 役割分担：ハーブづくり、生産・収穫・管理

■事業の目的

加西市西在田地区ふるさと創造会議（虹の郷にしありた）では、地域内での賛同者の拡大が課題であった。また、農地の維持管理や獣害対策等の広域的な課題もあり、それらも踏まえた対策が求められている。そこで、まず優先課題としては、地域内での賛同者を増やすため、ハーブづくり（説明会・苗植え会・試飲会）を通して地域活動の PR を図り、協力者を募ることを目的とする。

街中

- 事業主体：**コーディネーター**
- 役割分担：ハーブづくりの実現に向けたフォロー・SNS での広報作業への協力

■事業の目的

ハーブづくりや関連するイベントに対しては、外部人材やフォトグラファーとの連携を検討し、地域内での賛同者の拡大を支援することを目的とする。

コーディネーターが果たした役割…コミュニティミッションの策定に向けた事前打合せ

里山側に対して

地域再生アドバイザーから、コーディネーター対応部分を引き継ぎ、西在田地区ふるさと創造会議に対して、積極的な提案整理につとめ、事前会議の進行サポートを積極的に行った。

街中側に対して

コーディネーターとして、街中側への SNS 等の発信支援や会議でのグラフィックレコードの整理につとめる等、できる範囲での広報に努力した。

行政の役割

里山側が自分たちで活動できる支援を行い、地域再生アドバイザーやコーディネーターが里山で進行運営できるように、意見調整を行った。

成果

西在田地区では、コミュニティミッション策定の機会を通じて一つにまとまり、**自分たちで地域内外から関係人口を集め、活動を主体的に実施した。**関係人口活用モデル事業の進む先でもある、里山側の自立性・自律性が確認された。

振り返りとこれからの課題

西在田地区ふるさと創造会議では、自分たちで自立的・自律的に実施していることから、モデル事業としては本年度をもって終了となる。今後は、地域として疲弊することなく、継続していくための「つながり」を考え、年賀状や地域の瓦版等「関係人口の拡大と継続」への取り組みを続けていく。また、PR 等でニーズが生じた際に、地域の総意の上でひょうご関係人口案内所に連絡することとなっている。

地元産品ゆずの保全及び販売を見据えたPR

場 所 神崎郡神河町根宇野区　**事業年月日** 2021年10月～2022年1月

担当CD

皆が楽しく続けていけるような活動に。継続的な実施を。

里山

- 事業主体：**根宇野区・根宇野柚子生産組合**
- 役割分担：地域の紹介とゆず収穫作業の指導

■事業の目的

昭和40年代後半から地域の特産品として生産を始めたゆずも地域の高齢化と共に担い手不足が深刻化している。またゆずの販売についても販売（卸）先であるJA加工所の販売量の縮小により引取単価の引下げと引取量の制限などが課題となっており、2つの課題を同時に取り組むことを目的とする。

街中

- 事業主体：**ボランティア・フォトグラファー・協力及び協賛企業**
- 役割分担：ゆず収穫作業の支援・PR や広報への協力

■事業の目的

これまで根宇野で行われてきた（特定少数型）流通に新たな選択肢を増やすべく、（不特定多数型）広報活動や賛同協力企業の応募を行う。また事業を下支えする為に作業支援をボランティアで行い、同時に活動の販売を見据えたPRや広報に必要な宣材を確保することで、地域産品の保全に対して一助とすることを目的とする。

コーディネーターが果たした役割…コミュニティミッションの策定に向けた事前打合せ

里山側に対して

根宇野区・根宇野柚子生産組合と積極的な情報交換を行い、信頼を得ていたため、情報共有がスムーズに行われた。また、事業実施への気運の醸成や現地作業に対する入念なシミュレーションを実施し、当日のスムーズな進行に努めた。

街中側に対して

街中ボランティアに対して、オンラインカフェの実施や、現地作業の進行サポートを行い、顔の見える関係を築いた。また、企業や各種団体との連携を積極的に行った。

行政の役割

地域とコーディネーターの連絡調整が進むようにバックアップを行うとともに、オンラインカフェの取組支援や当日の現地活動にも参加し、全体の活動を見守った。

Process 2021

❶ 10月9日　オンラインカフェ：里山と街中との交流
❷ 11月7日、14日　現地活動：収穫作業ボランティア参加
販売を見据えたPRやPR協力
今後の販売につながる為の宣材の確保
協力企業団体募集
❸ 12月17日　振り返り会

成果

ボランティアの働きにより、約 600kg/ 日の収穫があり、収穫作業の軽減に貢献した。また、作業終了後は、ボランティアの多くがゆずやその加工品を購入し、地域への経済効果も見られた。里山側には必要な人手の確保と経済効果が見られ、街中側も地域貢献による活動への満足度につながっていた。

振り返りとこれからの課題

根宇野区では、次年度もモデル的に取り組むことを前向きに検討している。これからの課題としては、「区内の他のゆず農家への広がり（区での横展開）」と「ゆず及びゆず産品の更なる PR・広報」である。

コスモスまつりで広がりづくり

場 所 加東市河高地域づくり委員会　**事業年月日** 2021年9月～11月

担当CD

今後もコスモスを中心に河高の魅力発信！広がれフォトウェーブ！

里山

- 事業主体：**河高地域づくり委員会**
- 役割分担：コスモスまつりに関する情報の提供、写真撮影に関する地域への周知、オンライン交流や発信活動への参加

■事業の目的

加東市滝野南（河高）地区の河高地域づくり委員会では、平成24年から行っている「コスモスまつり」のPR不足等が課題として挙げられた。そこで、「コスモスまつり」の開催時にフォトグラファーを受け入れ、SNS等で発信してもらうことで、地域外へのPRに取り組むことを目的とする。

街中

- 事業主体：**フォトグラファー**
- 役割分担：写真撮影・動画撮影・SNS 等での発信 オンラインでの交流

■事業の目的

兵庫県には、写真や動画を発信したい街中の人が一定数存在し、なかでもフォトスポット等の地域情報をダイレクトに里山から入手、発信することで、より豊かなライフスタイルを手に入れたい人も多い。一方で、ウィズコロナでイベントが開催できない中、撮影の機会も大きく減少している。
こうしたことから、街中のフォトグラファーを里山に呼び込み、地域の良さの再発見とPRにつなげてもらうことを目的とする。

コーディネーターが果たした役割…コミュニティミッションの策定に向けた事前打合せ

里山側に対して

河高地域づくり委員会に対して、綿密な情報交換を行い、オンラインカフェや現地活動の進行サポートを積極的に行った。

街中側に対して

街中フォトグラファーに対して、写真撮影時の注意事項等をわかりやすく説明し、現地での支障等が発生しないように未然防止に努めた。

行政の役割

フォトグラファーの現地写真撮影やドローン撮影等に対して、地域住民とコーディネーターの連絡調整が進むようにバックアップを行うとともに、オンラインカフェの取組支援や当日の現地活動にも参加し、全体の活動を見守った。

Process 2021

9月にオンラインカフェを行い、10月に計3回の現地実践活動を行った。（振り返り会は12月）

成果

SNSのフォトグラファーグループ「河高フォトサークル」を設立し、約400枚の写真が拡散され、コスモスまつりの広報支援につながった。また、ドローン撮影も有志で行われ、コスモスまつりのPRに貢献した。里山地域ではコスモスまつりのPR効果と街中人材の出店等の利用による経済効果が見られ、街中側では地域PRへの貢献やコミュニティの広がりが見られた。

振り返りとこれからの課題

河高地域づくり委員会では、次年度もモデル的に取り組む方向で協議を進めている。これからの課題としては、「地域とフォトグラファーとの更なる交流」と「Facebook等のSNSの活用とその効果検証」、「地区内の他の課題に対するアプローチ」である。

心を灯すSAKAナリエ みんなで取り組み みんなに届けよう

場 所 多可町中区坂本村づくり協議会（人と自然と坂本） **事業年月日** 2021年9月～2022年1月

担当CD

人と自然と坂本・ボランティアの皆さんとの出会いは私の宝物です

里山

- 事業主体：**多可町中区坂本村づくり協議会（人と自然と坂本）**
- 役割分担：SAKA ナリエの運営（会場設営、オープニング、維持管理）

■事業の目的

多可町中区坂本地域では、2018年からより多くの人に坂本地域・多可町を知ってもらいたい、楽しい時間を過ごしてもらいたいと、イルミネーションイベント「SAKAナリエ」を開催している。今年度、より多くの人にSAKAナリエに参加してもらうために、街中側からアイデアを一緒に考えてくれる人材やPRをしてくれる人材、できれば会場設営を手伝ってくれる人材を募集する。そして、より多くの人が、坂本地域・多可町を知り、訪れてもらうようにすることを目的とする。

街中

- 事業主体：**ボランティア・ナビゲーター**
- 役割分担：SAKA ナリエの支援（アイデア出し、会場設営、オープニング）

■事業の目的

兵庫県では、里山イベントに参加したい街中の人が一定数存在する。また、ウィズコロナにより、イベントも無くなっており、思い出づくりの体験機会が大きく失われている。一方、地域情報をダイレクトに里山から入手して、より豊かなライフスタイルを手に入れたい人も多い。このことから、街中の人々が里山を訪れ、企画段階からボランティアで里山のイベントに参加し、SAKAナリエの企画や会場設営、広報に努めることを目的とする。

コーディネーターが果たした役割…コミュニティミッションの策定に向けた事前打合せ

里山側に対して

多可町中区坂本村づくり協議会（人と自然と坂本）に積極的に通い、現地の魅力の理解や人間関係の構築に努めた。

街中側に対して

街中側から積極的にアイデアを募集し、里山側の現地活動への刺激や誘発を行った。

行政の役割

当日の SAKA ナリエの取組が広がるように、広報体制を整え、ケーブルテレビや神戸新聞等での掲載、インスタグラム等での広報支援につなげた。

❶ 9月20日 *2021*
オンラインカフェ
（イルミネーションのアイデア）
❷ 11月21日
現地活動（装飾準備等）

11/21

11/21

❶ 11月23日 *2021*
オンラインカフェ
（オープニングのアイデア）
❷ 11月28日
現地活動（会場設営等）
❸ 12月5日
現地活動（オープニング等）

11/28

12/5

成果

企画段階からオンラインカフェ等で意見交換を行い、現地で里山側と街中側が共に作業し、SAKA ナリエに関わることで、コミュニティミッションのタイトルにある「みんなで取り組み、みんなに届けよう」が実践されていた。また、イルミネーション・オープニングのアイデア出しや会場設営等のボランティアにより、SAKA ナリエのさらなる魅力向上に努めた結果、イベントには多くの来場者が見られ、坂本地域や SAKA ナリエの PR に貢献した。

振り返りとこれからの課題

※振り返り会は今後実施予定。

川阪の全体構想～村の総意プラン～

場 所 丹波篠山市川阪自治会　**事業年月日** 2021年10月～2022年3月

担当CD

地域内外の多様な人材といっしょに川阪の未来を創っていきたい

里山

- 事業主体：**川阪自治会**
- 役割分担：川阪自治会（川阪全体構想の検討）、川阪活性化委員会（川阪オープンフィールドの運営）

■事業の目的

兵庫県丹波篠山市川阪集落では20歳以下人口がゼロであり、高齢化に伴って地域活動の担い手不足が課題となっている。特に「農地の活用・維持」は多くの住民の共通課題であるため、「川阪の農地の活用や維持管理についての将来予測マップ」をベースに、川阪集落とかかわりの深い様々な人材に現状や将来に対する想いやアイデアを聞き、「川阪の全体構想～村の総意プラン～」を作成し、集落一丸となって地域の課題解決や活性化に向けた活動を展開する。

街中

- 事業主体：**里地里山問題研究所**
- 役割分担：川阪オープンフィールドを通じた耕作放棄地の有効活用、アイデアの提供、簡易直売所の試験運営

■事業の目的

里地里山問題研究所が企画・募集をして、都市住民が2週間に1度の頻度で地域に訪問し、耕作放棄地の有効活用や地域の担い手不足(獣害対策や草刈り等)を支援する活動「川阪オープンフィールド」を行っていて、多くの外部人材が川阪で活動をしている(2020年度398名、大人のみ延べ人数)。これら外部人材が自身の興味関心・特技等に合わせて、農作業や地域活動の支援を行うほか、外部目線を活かして川阪の魅力を地域と共有して発信し、課題解決や活性化に貢献する。

コーディネーターが果たした役割…コミュニティミッションの策定に向けた事前打合せ

里山側に対して

川阪自治会との十分な情報共有を行い、地域課題に対する対策支援を積極的に行った。

街中側に対して

定期的に開催している川阪オープンフィールドの運営を通じて、地域課題の現状やその解決に向けた取組状況を伝え、川阪の未来のために、地域外人材の力が必要なことを積極的に説明した。

行政の役割

地域に必要な情報を提供し、川阪自治会と里地里山問題研究所の合意形成を見守った。これからの振り返り会の活動検証等も行っていく。

Process 2021

❶ 10月26日　定例会出席者の意見・想いヒアリング（定例会後）
❸ 11月14日　別荘所有者の意見・想いヒアリング（クリーン作戦終了後）
❸ 12月4日　定例会未出席の住民の意見・想いヒアリング
❹ 2022年1月30日　都市住民の意見・想いヒアリング（川阪OPF活動後）
❺ 2022年2月　役員会にてヒアリング結果まとめ・素案づくり
❹ 2022年3月26日　「川阪の全体構想～村の総意プラン～」の策定（定例会後）
●川阪オープンフィールド
10/31,11/14,11/28,12/5,12/12,12/26
1/16,1/30,2/13,2/27,3/13,3/27

成果

川阪オープンフィールドの活動に対して、集落住民の関与が十分に得られていなかったが、川阪全体構想の検討を通じて、集落の未来のために自治会として課題解決や活性化に取り組む機運が高まった。なかでも直売所を作ることは多くの住民から支持されたアイデアであり、子どもを含めた多世代・多様な外部人材の力を借りて、簡易直売所の運営を盛り上げていく。

振り返りとこれからの課題

※振り返り会は今後実施予定。

コミュニティミッションの策定や現地での実践活動に向けて動いている里山事例を紹介します。

場所　洲本市千草竹原町内会

里山

担当CD

すべての道は千草竹原に通ず！
ますますオモシロくなりますよ～。

- 事業主体：**千草竹原町内会**
- 集落の現状：洲本市の南部の山間部に位置し、全3世帯6人で、高齢化率83.3%の集落。
- 地域資源：洲本市千草竹原集落には、他にはない「満天の星空」「清流」「里山の営みと恵み」といった地域資源がある。
  - **自然**：柏原山や竹原川、竹原ダム、イシガメ、ウバメガシ、アサギマダラ
  - **歴史**：平家の落人伝説、水田の石積み、炭焼窯跡
  - **交流**：観光農園あわじ花山水、域学連携、ロングトレイル、小水力発電、レストランĒPiSPa エピスパ
  - **農業**：繁殖和牛、シキミ、あわじビーフ、シイタケ、お米

■集落の課題

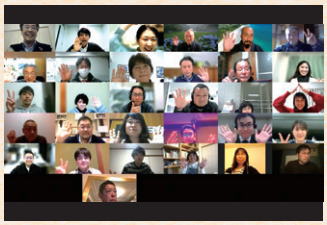
洲本市千草竹原町内会では、特に「外部との持続可能な交流」が課題として挙げられた。

【 その他の集落課題 】

- マネジメント面での課題
- 紫陽花の剪定等の作業への人手不足
- オーバーツーリズムや交通事情による環境への負荷
- 団体連携等の課題

街中

- 外部人材：**自然体験イベント等を行うナビゲーター**



場所　猪名川町大島小学校区まちづくり協議会

里山

担当CD

ワクワク楽しい大島のまちづくり。
盛り上げていきたいです！！

- 事業主体：**大島小学校区まちづくり協議会**
- 集落の現状：猪名川町の北部に位置し、1,144世帯2,303人、高齢化率41.3%の、11の集落が集まった地域。(令和3年4月末現在)
- 地域資源：猪名川町大島地域は、大野山（おおやさん）や猪名川(源流)をはじめとする自然資源とその恵みであるお米や椎茸等の農産物、大野山でのトレイルラン大会を通じた交流人口、杉生・西畑の練りこみ(秋祭り)等の歴史がある地域。
  - **自然**：猪名川渓谷県立自然公園、柏原の棚田、猪名川(源流)、大野山等
  - **歴史**：練りこみが秋祭りで行われる八坂神社(杉生・西畑)、農村廻り舞台のある八坂神社(柏原)等
  - **交流**：「いながわ里山猪道（ししみち）トレイルラン大会」を通じた交流人口(大会参加、コース整備ボランティア)等
  - **農業**：お米、もち米、椎茸、いながわ野菜等

■集落の課題

猪名川町大島小学校区まちづくり協議会では、特に次の４点が課題として挙げられた。

- 大野山及びその周辺の資源を活用した地域活性化
- 空き家を活用した人口減少、少子高齢化対策
- 大島の食、農を多角的に生かしていく
- 使いやすい交通システムの実現

街中

- 外部人材：**協議中**

コーディネーターの養成スクール ～全体講演とスキルアップ研修

コーディネーターの養成とスキルアップに向けて勉強会を計4回実施しました。昨年度と同様、2021年度も会場＆オンライン形式で実施し、約200名以上の参加予約がありました。

第1回 7/17(土)

全体講演「私のアドバイザーとしての歩み」

地域再生アドバイザー　三宅康成 さん

☞集落支援の中で感じたこと

- 専門的立場からの支援の必要性
- 住民の想いを聞き取る大切さ
- 地域資源を活かす大切さ

☞失敗と挫折

- 相手(地域)が求めることを理解できず、視野の狭い自分自身の価値観を押し付けてしまった。

☞これまでの経験からのつぶやき・アドバイス

一.カバン持ちのすすめ
　人の経験はうまく利用するべき。
二.視野の外に何かある　恐怖を感じて一人前
三.ひたすら聞く姿勢
　聴き役となって、相手からの情報を得ようとするべき。
四.自分の強みを知る～芯をきたえる～
　人との違いを強みに。
五.準備は嘘をつかない
　入念にした準備が徒労に終わるぐらいがちょうどいい。
六.想定外を歓迎する　例)教員の指導案、指導細案
七.万能選手である必要はない

学生は地域に入ってどう変わる？
→学生は劇的にどんどん良くなっていく。ファーストコンタクトは難しい。地元と共同作業をして、一緒に汗を流すと緊張せずに打ち解けることができる。

地域に入るときの注意点は？
→最初のコンタクト時にどれくらい打ち解けるかが大事。最初のコンタクトに失敗するとうまくいかないこともある。まずは世間話から始め、聴き役に徹する方が良い。

第4回 11/27(土)

全体講演「ひょうご型関係人口」を実践する

地域再生アドバイザー　中井豊 さん

神河町根宇野区のゆずの取組について

ふるさと応援 CD　萩原幸亮 さん

◉気づき・感じたこと

- 地域との適切なコミュニケーション→アイスブレイキングが大事
- 翻訳機能(地域の共通言語で語る)が大事

ボランティアの受入の適正規模は？
→丁寧にシミュレーションを行い、想定。

中井さんからの質問
モデル事業によって手ごたえを感じたポイントは？
→“地域の自発性・日常を壊さない”を大事に、地域が関係人口を仲間として認識していただいたこと。

丹波篠山市川阪自治会×川阪オープンフィールド

ふるさと応援 CD　鈴木克哉 さん

◉気づき・感じたこと

- 地域がどうしたいかが大事。
- 地域側の参加者の減少
  →地域の意思統一を図る必要性
- 関係人口とうまく結びつける取組

住民の集落への意識は？
→何とかしないと、と思っている人もいる。その数を増やしていく必要がある。

中井さんからの質問
実践活動から計画へ。将来づくりへの想いは？
→これまでの実績が計画づくりを後押ししている。外部の実践人材が目の前に見えることも大事。

☞コーディネーターへのアドバイス

- 現場に真摯にまじめに入り込む。
- 外部人材ならではのフラットな目線で、客観視する。
  →そうすると、答えはおのずと見えてくる。

☞“ひょうごのまちづくりの系譜”が脈々と引き継がれ発展

- 従来の「協働」の形に、コーディネーターや外部人材が関わり、 新たな人材が活躍することで、まちづくり自体がより豊かに。

☞「ひょうご型関係人口」は“協働の大切さ”をより豊かに実践

- 阪神淡路大震災以降、「創造的復興」のまちづくりが、身近に困った人を助け合うという「協働の大切さ」を培ってきた。「ひょうご型関係人口」の取組はこれをより豊かにするものである。

新たな人材の活躍　　従来の「協働」

スキルアップ研修

「二つの力」（観察力と介入力） “重い”と“想い”→「力はおもい」 Skill Up

地域再生アドバイザー 平櫛 武 さん

第2回 9/11(土) スキルアップ研修「地域でのファシリテーションを学ぼう～地域カルテ(概要)作成～」

☞研修のポイント

進める主役はあくまで地域であり、ファシリテーターは「観察→分析→判断→介入」を繰り返し行い、地域が主体的に取り組むための役割を担う。

観察力：場を読むこと
全体の会議の場を大きく見る

介入力：場に働きかけること
全体のプロセスとしてどう地域に介入するか

会場とオンラインの参加者は、4人1組程度に分かれ、異なる4つの状況でリレーファシリテーションを実践しました。

★会場とオンラインで比較すると、観察力に違いを発見しました！

会　場	オンライン (zoom)
参加者の表情や仕草、雰囲気を読み取っていた。	参加者の表情や発言に集中していた。

佐用町江川地域づくり協議会～はりま里山ホップづくり～

ふるさと応援 CD 吉山昌子 さん

◉気づき・感じたこと
- 分担確認は大事
- 臨機応変に対応する力
- コミュニケーションを積極的にとること
- 恐れずに情報発信

特に苦労したことは？
→報告書の書き方です。コーディネーターの視点で書くことに時間がかかりました。

加西市西在田地区ふるさと創造会議の研修を通じて

ふるさと応援 CD 林山祐子 さん

◉気づき・感じたこと
- 誰一人取り残さない、すべての人のために活動があることを意識する
- 合いの手
- ADやCDとの連携が重要

事前の準備は？
→県民局単位でのイベントなどの確認や方言や言葉使いに気を付けています。

第3回 10/2(土) スキルアップ研修「地域意見の重みづけツールと実践～地域課題抽出～」

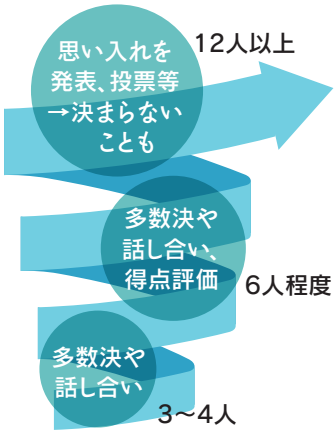
☞研修のポイント

地域は、共感、納得、理解し合うプロセスをツール化していて、これを実践(見える化)することがとても大事。キーワードは「地域の総意ですか？」。

“重い”は“想い”：
重みづけは重要
重みづけは今後の地域全体の活動の想いとなる。

“想い”は“重い”：
少数意見も大切に
少数意見であっても、意見の違いを理解して欲しい。

会場とオンラインの参加者は、グループ人数を変えながら重みづけを行うローリングファシリテーションを実践しました。



多可町中区坂本むらづくり協議会（人と自然と坂本）

ふるさと応援 CD 義浦慶子 さん

◉気づき・感じたこと
- 「助けてもらう」ではなく、外部の方と地域が「一緒に取り組む」ということに留意
- 地域の方とCDとの距離感→会合の回数や時間が解決

地域と信頼関係を築く上で、重要なことは？
→できる限り、自分ができることはしようと心がけました。

加西市西在田地区ふるさと創造会議の研修を通じて

ふるさと応援 CD 大嶋俊英 さん

◉気づき・感じたこと
- 想定シナリオに固執しない。
- みんなで優先順位を決めていくこと→推進力
- 公平な発言機会と十分なコミュニケーション・合意

重みづけで大事なことは？
→大切なのは、こちらの思惑に誘導せず、地域に委ねること。

❖ 授賞式

2020年度認定試験に合格された、兵庫県ふるさと応援コーディネーター26名の方への授賞式を行いました。

今後の未来

ひょうご関係人口案内所の里山地域を、大阪関西万博のフィールドパビリオンへ！
（兵庫県企画県民部地域創生局）

ひょうご関係人口案内所の基本的なフロー

現状整理

地域再生アドバイザーと共に、地域カルテを作成します。

課題整理

地域再生アドバイザーと共に、地域課題抽出シートを作成します。

コミュニティミッション作成

地域課題抽出シートを基に、コミュニティミッションを策定します。

オンラインカフェ

里山と街中とで、オンライン交流を行います。

現地実践活動

里山に街中人材が訪れ、コミュニティミッションに基づいた実践活動を行います。

振り返り

一年間の事業による取り組みについて振り返ります。

ひょうご関係人口案内所
～さとまちガイドラボ～

発行：兵庫県ふるさと応援交流センター　令和4年3月

編集：兵庫県地域再生アドバイザー
兵庫県企画県民部地域創生局（地域振興担当）
神戸市中央区下山手通 5-10-1
電話 . 078-362-9008